

S. I. 英語英文学科 3 年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

<勉強>授業がある間とはとにかく授業のための勉強を毎日頑張っていました。教授の部屋に行って質問したり、英語のエッセーを書くことは、カナダの大学に行くための練習にもなるので、積極的に行っていました。あとは1月の TOEIC に向けた勉強をしていました。春休みが5月中旬までと他の人より長かったので、少しだらけてしまいました。4月からはゼミには毎回行っていました。それ以外の授業はほとんど参加しませんでした。自分の専門分野の勉強をもう少しして、準備万端にしておこうと思っていましたが、春休みのうちに9月以降の授業の準備をするというのはなかなかやる気になれず、結局、自分の好きなことをしていました。その時はとても時間を無駄にしたと思っていましたが、カナダで新しいものをたくさん吸収する前に、休みの期間があってよかったな、と今は思います。長い春休みの使い方は自由ですが、忙しい時期は忙しく、休める時は思い切り休むのもいいと思います。

<バイト>1回生から続けていた塾のバイトと、冬休みや春休みは短期バイト(冬は郵便局、春はモデルルームなど)もしていました。奨学金も申し込んでいましたが、休暇中の旅行やその他の雑費のために少しでもお金を貯めておいてよかったと思います。

<荷物>最後の1か月で急いで用意をしました。でも冬用の服は冬休み中などにバーゲンで買っておけばよかったと思います。でもカナダでもより好みしなければ安い物も見つかります。

<その他>春休み中はバイトと少しの勉強の他に、その時にしかできない事、例えば地元の友達に会ったり、日本に帰ってからのしたい事、取りたい科目などのリストアップなどもしていました。今になってそれはとても役立っています。初心忘れるべからず、というように、カナダに行く前にカナダでしたい事、やらなければいけない事などを全てノートに書いて持って行って、落ち込んだ時などに見ると自分を奮い立たせる良い道具になりました。

② 語学研修期間

最初の1ヶ月半は普通のコースで勉強します。私は、午前中は一番上のクラスで5~8人程で毎日先生と教科書を基本に、ディスカッションやゲーム、リスニングやライティングなど、ほとんど全てのスキルをカバーしていました。午後は、自分の苦手な分野がフォーカスされたクラスになります。私は、月・水は Conversation、火・日は Speaking & Listening でした。学生だけでなく一般の人もいるので、気軽な雰囲気英語を体で身につける事ができました。この期間のあと、いよいよメインの University Preparation Class に移りま

した。約 1 2 人程でしたが、全員がカナダの大学進学を目標としているので、とてもレベルが高かったですが、先生方はとても親身になってくださるので、自分なりに毎日努力してスキルアップを目指すことができました。また、他のクラスと違って厳しい点数評価があるので気を抜けません、その代わりこのコースを卒業することができたことで、とても大きな自信となりました。宿題は毎日たくさんあり、エッセーやプレゼンテーションなど休む暇はなく、始めの様に週末は遊ぶなどということができなくなりましたが、とても有意義な時間でした。また、この時に傍で支えてくださったホストファミリーの存在はとても大きかったです。勉強漬けの毎日でも家に帰るととても心が癒され、日本に対するホームシックも一度もなく、カナダの生活に集中することができました。

③ 正規科目履修期間

- ・履修科目
- ・授業、レポート、定期試験

<Foundation of Politics>

国際関係学を学びたくてこの大学を選んだので、そのコースの基礎として設置されていたこの授業を取りました。でもこれが、一番私を悩ませる科目となりました。1 回生用の授業なので、クラスは 100 人以上。厳しい先生のもと、月・水はパワーポイントがメインの授業、隔週でセミナー（高学年の生徒 1 人が司会、生徒は 20 人ほど）が 1 回ありました。

<Principle of Literary Analysis>

1 回生用の英文学の授業で、教授によって教え方や教材も全く違いました。私のクラスは、短い小説や詩などを勉強しながら、どのような Criticism があるかという授業でした。30 人弱のクラスでした。Midterm, short essay, exam, long essay で成績が決まりました。

<International Relations>

私が一番とりたかった授業でしたが、3 回生用の授業だったので、クラスでのディスカッションはみんな熱がこもっていました。私は無知に近かったので、みんなの意見をノートにとり、自分なりに授業への参加を態度で示していました。教授も私の状況を理解してくださっていたので、エッセーなどで頑張れば、クラス内で発表できなくても全く問題ありませんでした。

<Introduction to Poetry>

1 回生用の文学の授業です。人気の教授、1 回生用の授業、ということもあり、100 人以上のクラスでしたが、授業ごとに提出する free write report (1 ページほど自分の感想を書く) とエッセーと 2 つの中間テストと最終テストで成績は決まるので、充分教授の目が一人一人にいき届くクラスでした。

<Literary Periods 1800-Present>

Poetry と同じ教授だったので free write report が毎授業ありました。2 回生用の授業だっ

たのですが、授業でカバーする詩や物語プラス、自分で文学の専門用語やロマンス主義などの literary term を覚えてそれを作品に応用するのが難しかったです。Poetry と同じような配分で、得意なエッセーを頑張ったのでテスト前に集中して勉強すれば大丈夫でした。

<Literature by Women in 20th Century>

3回生用の授業で、ゆったりとした話し方が特徴的な女性の教授でした。中間テスト、エッセー、最終試験、出席で採点されたので、たとえ授業で発言することができなくても努力して勉強していればきちんと点数になって返ってきました。

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

<Halifax>金曜日の activity にはよく参加していました。これは遠足などが多いですが、いろいろな場所に行くことができ、現地の人とも触れ合えることができるので、とてもいい経験となりました。

<Mt.A>

Mt.A では、秋学期の始めに SACTivities Fair というのがあり、そこでたくさんのクラブのテーブルを自分たちで回り、興味のあるところに自分の名前とメルアドを記入します。その後、登録したグループからメールが来るようになり、気に入れば参加する、といった気楽な感じですが。なのでその fair の時に、興味のあるものは片っぱしから sign するといいわれました。私も5つくらい登録したと思います。

秋学期は、Leadership Mt.A というのに参加しました。初日のオリエンテーションで分かれたグループごとに、リーダーを中心に1学期間の中で一つボランティア活動をします。私たちのグループは、初め保育園に行こうと言っていましたが叶わず、生徒たちのための awareness campaign で、テストのストレス回避のためのポスターやキャンディー配りをしました。その間にも、Leadership Mt.A 主催の4つの講演会にも行き、そのうちの1人と私たちのグループは食事会もしました。その方は War Child Canada の創設者で、とても貴重な体験になりました。Leadership Mt.A は冬学期の最初に closing ceremony があり、その時にささやかですが賞状をもらうので、秋学期は大変でも、とてもいい思い出になりました。その他は、Right & Democracy という society に入り、ユーモアあふれるキャンペーンに少し参加しました。そのクラブで、同じような考え方の友達にたくさん会うことができたので、クラブに参加するのは友達作りにもってこいだと思います。冬学期は時間を拘束されなくなかったので何もしませんでした。美術館で開かれるリーディングの集まりや、他のグループのキャンペーンなどには時間の許す限り参加し、とても有意義な時間となりました。

⑤ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について（寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など）

<ホームステイ（語学研修中）>4人姉妹と犬・猫と共働きの両親の大家族でとても賑やか

でした。でも毎日ご飯を作ってくれるお父さんと、忙しくても姉妹や私の話もちゃんと聞いてくれるお母さんのおかげで、とても楽しく落ち着いた生活を送ることができました。学校から徒歩 20 分でした。周りは民家ばかりで大通りに出ると一気に交通量が激しくなる場所に住んでいたのも、治安はダウンタウンよりもずっと良く、でも出かける時にも便利な場所でした。朝は自分でベーグルなどを焼いて食べ、お昼はお父さんが用意してくれたお弁当（サンドイッチやクラッカーなど）、夕飯はお父さんが用意してくれたものをみんなで食べました。仕事や習い事で忙しいにも関わらず、放課後ショッピングに行ったり休日には旅行したりととてもアクティブな家族だったので、色々な経験をすることができました。カナダを出る最後の日にはまたその家族の家に帰ったり、今でも連絡を取るほど良い関係を築くことができました。部屋も、広い一人部屋だったので夜は勉強に集中することができたのでよかったです。

<寮（正規科目中）>のんびりとしたホームステイの生活から一変、新入生（18・19 歳）ばかりの寮で、とても狭い部屋にルームメイトとの生活が始まりました。最初の 1 週間は **frosh week** という新入生の為のオリエンテーションがあるのですが、そこでカナダの大学恒例(?)の **initiation** というのがあり、そういう行事に対してショックを受けてしまったので、その後もなかなか寮には溶け込めませんでした。朝・昼・晩全ての食事は一つの **meal hall** でとるので、どこに行っても誰かと一緒という生活だったので時々苦痛に思いました。それでもこの寮を移動しなかったのは（気に入らなければ移動願いも出せます）、ルームメイトが本当に良い子だったからです。彼女も新入生の一人でしたが、寮の他の人とは違って、お酒も飲まないし汚いパーティーは嫌いという子で、音楽や服の趣味、専攻も似ていたのもとても気が合いました。週末など 2 時まで他の部屋が騒いでいて寝れない時は、二人で何時間も色々な話を話してとても楽しかったです。分からない英語を聞いたり、カナダの文化を聞いたり、もちろん日本のことも紹介したり、本当に優しい子だったので孤独を感じることはありませんでした。彼女にはずっと一緒にいる彼氏がいましたが、その子もとても優しい子だったので、たまにずっと二人でいられると邪魔だなと思う時もありましたが、その 2 人のおかげで落ち着いて勉強を続けることができたんだろうな、と思っています。

⑥ 長期休暇の過ごし方

イギリスなどに比べると、休暇は少ないです。語学学校期間中で 2 週間ほど休むか休まないかの選択ができるので、休暇が欲しい人はそれを選ぶといいと思います。でも、言語学校自体が毎週金曜日に遠足などの企画をしているので、休暇をとるよりはずっと学校に通って馴染んだ方が楽しいと思います。私は後者だったので、結局、Mount Allison University の冬休み（12 月中旬から）が初めての長期休暇でした。

< winter break: 12 月中旬～1 月初旬 > この期間だけ、大学の寮が閉まります。

International students には\$200 前後で泊まる場所は手配してもらえますが、雪で埋もれる田舎にいるよりも、どこかへ行って楽しんだ方がいいと思います。でも Sackville に滞在していた友達は、みんなでクリスマスパーティーをしたりと、楽しんでいたようです。私は語学学校のある Halifax にまずは戻りました。語学学校のクリスマスパーティーに参加したり、ホストファミリーを再訪したり、先生のお家にお邪魔して、カナダのクリスマスを満喫しました。そのあとは、語学学校で知り合ったケベック出身の友達に会いに行くために、友達と Quebec に行きました。そのあとはまた Halifax へ戻り、友達とカウントダウンをして少しゆっくりしたあと大学に戻りました。この休みが一番長いし年末年始という事で各地でイベントもたくさんあるので、是非色々な計画を立てたらいいと思います。

<春休み reading week>大学の友達 4 人で 3 泊 4 日の Quebec 旅行に行きました。この休暇は 1 週間弱しかないので、時間の使い方が難しいと思います。でも、この時に仲良しの友達で旅行に行くと、たくさん思い出が作れてよかったなと思います。旅行のあとは寮に帰ってゆっくりしながら、授業で追いつけなかった所のリーディングなどをしていましたが、基本的にリラックスして勉強というよりも体を休める期間という感じでした。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

ほとんど何もしていませんでした。就活のサイトには 2 つほど登録していましたが、説明会やセミナーなどの日にちも帰国前ばかりなので、閲覧するだけ、といった感じでした。でも、サイトを色々読んでおくことで、逆に今自分がしなくてはいけない事、今だからできることなどが見えてきました。自分の付きたい職業のために、ここでできること（勉強など）をもっと頑張ろうと思えました。でも帰って来て思うのは、もう少し就活の為の専門用語や、業種などを調べておくべきだったということです。あとは外国にいるから、という理由では通用しないと思うので、できる限り日本の大きいニュースや政治にはできる限りの範囲で触れていた方が良くと思います。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

<語学学校での出会い>私は初め、Mount Allison University に行きたいという思いだけでここを選んだので、はじめの 3 か月半の International Language Institute での生活はあまり重要視していませんでした。でもカナダ (Halifax) について host family に出会い、語学学校に行くようになって、生涯で忘れられない時間を過ごすことができました。先生方も友達もとても優しく、小さい学校だったのでほとんどの生徒と知り合いになれます。毎週金曜日の遠足は、企画や写真が大好きな先生が担当していろいろな思い出作りをしてくださいます。泊まりがけの旅行もたまにあるので、カナダでしか体験できない事をより楽しく、そして安い値段で楽しむことができます。ホストファミリーの旅行についていっ

たり親戚や友達の家にも遊びに行きました。ホストファザーとホストマザーはいつも私の話を聞いてくれたので、英語に慣れることもできたし、まったくホームシックにならずに済みました。大学に行ってから Halifax に帰りたいと思ってしまうほど、Halifax 自体が都会でも田舎でもない住み心地のいい街で、みんな優しい人ばかりなので本当に楽しかったです。

<大学での活動的な友達たち>カナダの大学はほとんどの生徒が寮か近くの家に暮らしています。なので 1 日のほとんどの時間をキャンパス内で過ごします。勉強だけでなく、ボランティア活動やクラブ、大学内でのバイトなど、生徒一人一人が生き生きと自分に合った活動をしています。私は 1 年しか滞在できないのと、勉強でいっぱいだったので、責任のある活動などには参加できませんでした。しかし、自分の参加したクラブなどでできた友達の活動を傍で見ると、とても刺激になりました。たとえば、2 回生のカナディアン女子の女の子で、Rights & Democracy society を運営している友達がいました。その子はいつも笑顔で話しかけてくれて、何度も授業後に話したりしていました。見た目は本当におおらかで優しい感じでしたが、その society ではリーダーとして、大きなイベントを開いたり毎週内容の濃いミーティングをしていました。実はその友達は去年の夏、ガーナでボランティアとして現地の子どもたちと触れ合い、大きな conference にも出席していたのです。自分の努力や実績を見せびらかさず、自分の信念を持って取り組む姿に感動しました。そういう出逢いが Mt.A ではいくつもありました。その人達のお陰で、自分自身の今まで、そして将来をもう一度考え直すことができ、これらの出逢いは本当に大事なものとなりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

学校が始まってからの寮生活です。MtA では寮によって全く雰囲気が違います。とても静かだけど友達になりにくい寮。上級生が多く勉強に対して真剣に取り組んでいるが仲良しの寮。新生が多く、勉強よりも遊ぶ方を重視しとても仲良しの寮…私はこれでした。みんなが仲良しで、地下や洗面所で会っても話してしまう、そういう雰囲気は大好きでした。パーティーもみんなと一緒に準備をしたり、いろいろな行事がめじろおしなので、参加すればするだけ友達が増えるし楽しいです。でも、カナダに留学したかった一番の理由が勉強だった私にとって、週末になると夜中の 2 時までお酒を飲んで騒いでいる寮には、馴染むことはできませんでした。幸か不幸か、私のルームメイトもお酒やパーティーが嫌いだったので、私と、ルームメイトとその彼氏（同じ寮）の 3 人で、いつも寮の仲間とは違う、という話をしていました。何度も違う寮へ移ろうとは思いましたが、私の勉強に対する想いや、状況を理解し、趣味や生活リズムも似ていたルームメイトと離れることだけが嫌で、結局最後までその寮で過ごしました。もちろん寮で他の友達もできたし、考え方が同じでしっかりしているルームメイトに出逢えたことは宝物です。それに、とても辛い

この寮生活があるからこそ、これからもっと頑張ろうと思えるし、どうやって自分をアピールすればいいか、どうやったら全く考え方の違う人とコミュニケーションがとれるか、などを学べたので、その時は辛かったとしても、決して無駄ではなかったと今では思えます。

それでもやはり一つ思う事は、Mt.A では、関西学院大学から毎年、夏と秋にそれぞれ 50 人ほどの学生を受け入れています。その総称は「MASSIE」というのですが、Mt.A に来たその日から、「Are you MASSIE?」と何十人の人に聞かれました。そして「No」というと、とても残念そうに去ってしまいます。人種差別ではなく、種類の差別というか…とても辛かったです。それに、Halifax にいる間、英語しか話してはいけないというルールの中で生活していた私にとって、日本語を毎日耳にすること自体が耐えられませんでした。私の寮はその人達が 10 人もいたので、その日本人が耐えられずに避けていたら、寮の他の生徒(カナディアン)も避ける事になってしまい、とても辛かったです。でも何度も言いますが、それさえも今は、自分にとってはいい思い出です。たとえ想像と違う場面に出会っても、自分の目標を失わずに頑張れたことは、今後の大きな自信となりました。でも今から留学しようとしている人にとって、もし日本人とあまり会いたくなければ(団体の日本人という意味で)、Mt.A はあまり薦めたくありません。他の大学にもそういった制度はあると思いますが、Mt.A の学生にとって MASSIE はひとつのエンターテイメントとして大歓迎の体制で受け入れられているので、待遇がまったく違い、とても戸惑うと思います。そういう歓迎を自分もしてほしい、というわけではなく、それを傍から見てみると、やはり「なんで?」という思いに駆られます。それは日本人だけでなく他のアジア人も同じ思いでした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

カナダだから、というよりも、田舎の大学生だから、といったほうが良いと思うのですが、お酒やセックスなどについての考え方が全く違ったので、大学に来てから本当に戸惑いました。まずお酒は、本当にみんな飲む量がすごいです。日本人は、居酒屋に行って飲むか、部屋でみんなで飲む、というのが普通で、飲むのは楽しい話や真剣な話をするため、という考え方がある気がします。でもカナダの大学生は、飲んで酔っ払って吐くかセックスする、といった感じでした。お酒だけでなく、initiation などでは、ケチャップやシロップを頭からかぶったり、聞いた話ではコーラを一気飲みして芝生を一周周り、それを繰り返して吐くなど、donation 等と言っている一方で食べ物を粗末にする遊びがある事が理解できませんでした。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

辛かったことや悲しかったことも全部含めて、良かった点だと今は思います。私は始めの

語学学校がとても大好きで、大学に来てからのギャップに戸惑い、自分を見失いかけてました。まだ慣れない大学で、正規の授業が始まり、勉強がしたくて来たのにその勉強もうまくいかない、悩みを話せる友達もなかなかできない、寮生活になじめない…そんな時心の支えになったのは、バスで 3 時間の場所にいる語学学校で出逢った友達や先生、そしてホストファミリーの存在でした。連絡は頻繁に取れなくても、日本ではなく会おうと思えば会える距離にいる場所に自分の事を応援してくれる人がいると思うと、寂しくても頑張ることができましたし、自分の目標を失わずに勉強を頑張ることができました。悪かった点があったからこそ、良い思い出が際立ち、今では辛い経験もすべて意味のあるものだったと思う事ができます。不安がたくさんあっても、カナダでしか経験できない辛いことも経験できるのだから、本当に貴重な留学となったと思います。

勉強に関して言えば、私は初め国際関係学を学びたくて Mt.A を選びましたが、秋学期で挫折し、また同時に英文学の授業が本当に楽しく、冬学期は 3 科目全て英文学を取りました。自分の当初の目標とは違っても、新しい自分の方向性や夢を発見することができました。そしてその中で、自分と同じ価値観の人を見つけて将来像がはっきりしたり、逆に違う価値観の人と知り合いになって新しい考え方もできるようになりました。留学すると就活が遅れる、という不安もあるかとは思いますが、他の人には体験することのできない、新しい発見や挫折を経験することができると思います。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

<パソコン> 小さければ小さいほどいいと思います。Halifax にいる時は家で作業すればいいのですが、大学に入ると、図書館に持って行きたい時や、ミーティングの時など、小さい方が楽です。私は、VAIO のノートパソコンを持って行きましたが、他の生徒のを見てみると Mac の方が色々な面で良さそうでした。あとは USB ケーブルです。大学では、図書館やパソコン室でいつでもパソコンが利用でき、パソコン室は夜の 1 時まで開いているので便利ですが、やはり自分の物を持っていくことをお勧めします。それから、インターネットをするためのケーブルを、Mt.A に行く時に持って行く方がいいです。私は最初の 1 週間、ルームメイトがまだおらず一人の生活だったのですが、その時ワイヤレスが作動せずにインターネット無しの生活で（でも register などでインターネットは必要だったので）、とても不安な思いをしました。Mt.A ではよくワイヤレスが使えなくなるので、向こうでも \$1 で買えますが一応一つあると安心だと思います。

<マイクとカメラ> skype で親や友達と無料で電話できるように、これは持って行った方がいいです。親とは始めの頃毎日話し、1 ヶ月を過ぎると月に 1 回話すだけで十分でしたが、いつでも話せる、という気持ちがあるだけで安心できると思います。私は他にも、同じこの制度で留学に行っていたアメリカとイギリスの友達とたまに話して、悩みを聞き合ったりすることができたので、とてもよかったです。

<新生銀行のカード>日本の銀行で唯一外国で引き落とせるのが新生銀行のカードです。私は行く 1 か月前に作成しました。他の銀行の web 引き落としで新生銀行に入金し、現地で新生銀行のカードでお金を引き出し、必要な分だけ使っていました。大学に来てから、RBC という銀行のカードを作りました。Halifax にいる間は Mt.A の近くにどの銀行があるか分からなかったので作りませんでした。今後の参考を書いておくと、Mt.A の近くでは、RBC Royal Bank と Bank of Nova Scotia があります。

<折り紙>何か日本の物を持って行こう、と考えた時に、やっぱり折り紙でした。誰かとお別れのとき、必ず何か折って、メッセージと一緒に渡すととても喜んでくれました。

<専門分野の日本の資料>私は、International Relations と English を取る予定だったので、高校の社会の資料集や自分の好きな詩集などを持って行きました。あとは地図帳があると意外と役に立ちます。

<自分のメモ>これはとても個人的ですが、自分のしたい事や夢、学びたい事や好きな事、嫌いな事、大事な人・物を一つのノートに書き込んで持って行きました。向こうに行っても書き足していましたが、それを読み直すことで、自分の目指すものが揺らぐ、また 1 日 1 日が貴重な留学において、迷ったりする無駄な時間を少しでも短縮することができたのではないかと、思っています。なのでこのノートは、留学に留まらずお薦めしたい事の一つです。

③ 語学力の向上等、留学の成果

<Speaking>これは、私の一番苦手とする分野でした。語学学校に通っていた時も、書けるけど話せない…といつも悩んでいました。でも、リラックスした雰囲気の中で、友達やホストファミリーと話すうちに、だんだん慣れていき、大学に入った頃には緊張せずに話せるようになっていました。ルームメイトと初めて会った時も、「思っていたよりもずっと英語が上手なのね」と言われて嬉しかったことを今でも覚えています。それでも、日本では発言するのが好きだった私が授業中に発言することが出来ず、悔しい思いをしました。でも今では、冗談を言い合えるようにもなったので、大きな成長だと思います。

<Writing>もともと書くことが大好きで、エッセーにいつも力を注いでいました。授業で free writing などがあったり、もちろんエッセーもたくさんあったので、自然とすらすら英語で文が書けるようになっていきました。それに加えて、友達と face book や skype でチャットやメールをたくさんするので、英語でタイピングする速度もとても速くなりました。

<Reading>語学学校に通っていた時は、1 ページびっしり英語が書かれたものを読むのもうんざり…といった感じでしたが、大学に入ってからはいきません。毎日何十ページも授業では進みます。はじめのうちは、徹夜してでもリーディングを終えなくては、思っていました。でも慣れてからは、全部読むのではなく大事なところをかいまむ、といったスキルも身につけ始め、それと同時に速読の力もついてきたので、最後の方にな

ると授業の予習もとても楽になりました。語学学校の間はその速度しか知らないのだから、いっぱいだと感じてしまったんだと思います。実際に授業が始まって、リーディングの量を肌で感じて初めて、いろいろなスキルが身についていきました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

IV. 写真



語学学校のクラス写真です。このように、世界中から来ている生徒と一緒に、少人数の授業を受ける事ができます。先生も学校の雰囲気もアットホームなので、新しい環境にすぐ慣れる事が出来ましたし、苦手だったスピーキングも、1か月経った頃には楽しく話せるようになっていました。



この日は Society of All Nations Banquet というパーティーで、文化的な衣装を身にまわって色々な国の料理、パフォーマンスを楽しみました。ここに映っている人たちは私の一番の友達で、カナダ人、ドイツ人、日本人など様々です。私の友達はカナダ人とインターナショナル、半々くらいでした。インターナショナル生とは勉強面や生活面などで同じ悩みを抱えていたので、よく励まし合っていました。